

令和元年度 水引・湯田・西方地区まちづくり懇話会 答弁要旨

と き 令和元年12月19日(木) 14:00~16:00
ところ 水引地区コミュニティセンター
出席者 市 : 市長、永田市長、知識副市長、藤田教育長
企画政策部長、総務部長、危機管理監、ひとみらい対策監、市民福祉部長、農林水産部長、商工観光部長、建設部長、教育部長、水道局長、地域政策課長、広報室長、外
地域 : 3地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民 23名
(合計 42名の参加)

議 題

議題1 水引地区

草道川の河川改修工事進捗状況・これからの予定について

草道地域を流れている草道川の河川改修工事についてお伺いいたします。

草道川は、川幅が狭く大雨のたびに道路や田が冠水していました。

これをなくするために草道川の改修工事が計画され、平成6年の県営圃場整備事業の完成時に、土地の買収も終わっていると聞いています。

肥薩おれんじ鉄道鉄橋より下流については改修が終わり、川幅も広がっていますが、国道3号より上流については一部分のみ工事が行なわれたものの水が流れる部分は改修されていません。

近頃では、各地において異常気象による災害の発生が報道されています。堤防の近くの道路を使い、避難する高齢者も多くいます。

また、上流には、かんがい用の別府池もあります。これが崩壊すると今の川幅では、周辺に影響を与えるのではないかと思います。

肥薩おれんじ鉄道鉄橋・国道3号があるため難しい工事とは思いますが草道川の河川改修について現在の進捗状況・これからの予定についてお伺いいたします。

【建設部長】

草道川については、鉄道、国道3号の所までは既に改修が済んで、数年前に国道3号の上流の右岸側を一部改修が済んでいる。ちょうど場所は水引地区コミュニティセンターの前になるが、別府駅と小学校の間の水田地帯であるが、県営圃場整備によっ

て既に河川用地を確保して、共同減歩方式というもので将来の河川敷となる土地というのは確保されているが、その後、改修に至っていない。一番の原因、課題は鉄道と国道3号が交差している部分がネックになっているということ。県に聞いたところでは、非常に大きな費用が掛かるということで、特に肥薩おれんじ鉄道については、いろいろな協議が必要でハードルが高いというということ、今のところ目途が立っていないということであったが、せつかく上流側の貴重な土地を提供されて、河川敷として用意もされているので、市としてはこの交差部を含めて、再度、このような懇話会でも大きな一番の議題として出ているということをつないではある。さらに、できましたら地区コミュニティ協議会と一緒にになって要望書等で県と一緒にいきたいと思っている。ただ、時間が掛かるので、その間については寄り洲除去や流れを阻害する草木の伐採等を実施していきたい。

また、井出平橋に水位計が設置されており、ソフト面からは、できるだけ防災安全課等とも連携を取りながら避難の方法、行動の仕方とかそういうものについては今後も連携させていただきたい。とにかく、県にこのような会議があり、地元としては大変大きな課題として待っておられるということをお伝えさせていただきたい

意見

井出平橋の上流側は、もともとの道路はかさ上げして道路だけ移動している。川幅はそのままですので、実際は何もやっていないような状況だから、確かに鉄道はかなり難しいのかなというふうに思うんですけども、国の買収も全部終わっているのであればなるべく早く進めてもらうように努力をお願いしたい。

【建設部長】

ここだけではなくて川底、網津川のところについてもそうである。水引地区については、国道3号と鉄道の関係で、同じ条件が3箇所あるので県も重々お分かりである。

意見

国道3号から上流の方は一部だけされておりますけれども、その上の方が手付かずの状態です。そういうことで、地域の方々が河川愛護作業をされる時に非常に難儀されるわけです。ですから、川に木が生えたりいろいろしていますので、何とかしていただけないか。

意見

合わせて、小倉川も相当雨が降れば国道が冠水します。県にも要望していますが。その前に河川の用地は買収済みですけれども、全然工事が進んでいないという状況でございます。肥薩おれんじ鉄道が、さっき言われたようにネックになっているという

ことですね、JRの貨物等が通る関係で止めることができない。工事をするとなれば止めないと工事が進まないということでございました。それに合わせて、小倉の肥薩おれんじ鉄道の所を広げるには経費が1億円くらいかかるという回答を県からいただいているので、大変難しいと思うけれども、これを国に何とか要望していただいて、早く川幅を広げていただければ冠水もしないと思いますので、ぜひ、よろしくお願いします。

意見

昔は国鉄だった訳だから、その時代のことを考えれば今どんどん物事が下に降りてきているから、ちょっと上にあげて国が早く対応していただくような努力をしていただきたいと思います。

川底なんかは水位が上がったら、全部が出て警戒をしたり、いろいろなことをやる人が多いです。交渉しているだけでは進まない。どこにあげたら一番最短でいくのか。ぜひ、お願いします。

意見

水位計の話があったが、瀬之口橋にも付いたんですね。ある日突然、付いたからびっくりして、これは誰が何のためにつけたのか、連絡がなかったので分からなかった。水位計が付いた目的は、氾濫を防ぐためなんでしょうけれども、いつぐらいからの計画でそうなったのかちょっと教えていただけますか。

【危機管理監】

平成18年には川内川の大きな水害があった。ここ最近、全国的に大きな水害があり、そういう河川の情報を早く把握するために、国土交通省をはじめとして一級河川に水位計を設置しようということでこれまで取り組んできている。その流れで県の方も県管理の河川について水位計を付けて、早い段階から河川の水位情報を把握しながら、それを防災に役立てようということで、いま国、県に取り組んでいただいている。その一環で県内をはじめ市内の主な河川には水位計を付けていただいている。

今ありましたように草道川等にもありますが、それを基にして、市としましても水位情報を早めに把握しながら、皆様方に早期避難に向けた取り組みをお願いしようということで、現在、取り組んでいますので、その一環ということでお考えいただきたい。今後、このような水位情報を基に早めの避難に役立てていきたい。

議題2 湯田地区

湯田地区が進める「活気あるまちづくり」への支援について

薩摩高城駅ポケットパーク（農産物等直売所）を利用して地域活性化を進める事

重点目標とする。すなわち、薩摩高城駅周辺の整備と美しい眺望良好な湯田口海岸の環境保全に努め、「ポケットパーク」を最大限利用し、肥薩おれんじ鉄道と連携を図りながら、「薩摩高城駅まつり」などのイベントを開催し、人の集まる薩摩高城駅に展開していく事を目標とする。

「ポケットパーク」を利用した生産及び販売の充実・拡大を図るために、地元高齢者による家庭菜園で楽しみながら、地域特性のある作物を生産し、消費者に好まれ安全で安心な農産物を提供できる、地産地消を担う販売拠点としていきたいと考えている。担当部署による支援をいただきながら、「園芸サロン」の技術指導も継続し、また、施設のPRについても支援をお願いいたします。

また、「ポケットパーク」より見下ろす塩浜の一部荒廃した休耕田畑の景観を少しでも良くするために、塩浜圃場整備計画の事業の手始めとして塩玉葱栽培に着手しています。今後、周辺道路・水路等の整備をしていただき、地域農業活性化支援事業を活用して生産を増やし「ポケットパーク」での販売を拡大していきたい。さらに、圃場の貸し農園方式を採用し、塩玉葱をPRし、作付面積を広げていきたい。

なお、湯田地区以外の近隣の「西方」「陽成」「吉川」地区の協力を得て、「ポケットパーク」事業に参加していただく事を検討していきたい。

川内管内の農産物加工センターは、現在近隣の陽成地区の加工センターは予約が多く、思い通りに利用する事ができず、JA加工センターは閉鎖している状況と聞いております。

そこで、キクラゲ工場の誘致に失敗した旧高城西中学校の有効活用として、地域で生産した農産物を高齢者と一緒に、特性のある伝承食品等を加工して「ポケットパーク」で販売するために、調理室を農産物加工センターに改修していただきたい。

【農林水産部長】

市では令和2年度の供用開始予定で、本年度から薩摩高城駅ポケットパークの整備を行っているところである。これを農産物直売所として活用することへの農林水産部への支援の在り方についてということであるが、まず園芸サロンについては、これまでも湯田地区コミュニティ協議会の要請に基づき実施をさせていただいており、これに農政課の技術職員もしくは営農専門指導員が出席しながら技術指導を行っているところである。これについては、今後も御要望に基づき、引き続き技術指導を行って参りますので、遠慮なく声掛けを行っていただきたいと考えている。

次に、ポケットパークのPRについて、市内外へのPR、諸活動に関する研修会の実施等については、情報収集をして湯田地区の皆様方へ情報提供に努めて参りたいと考えている。また、市では農林水産物直売所マップを作っている。これにはくつろぎの里「湯田ん蔵」も掲載されているところである。ポケットパークが整備された後は、この直売所マップにも新たに登載しながら、PRに努めていきたいと考えている。併せて、「直売所ネットワークかごしま」への加入や「かごしま地産地消推進店」への登

録をしていただくことで、鹿児島県と一体となった直売所のPR活動も可能であるので御検討をいただければと考えている。

続いて、塩浜圃場の整備計画については、塩玉ねぎの特産化も踏まえた技術指導も行っていきますし、また、市単独事業である地域農業活性化支援事業を活用していただきながら、農地の荒廃解消対策等にも支援させていただきたいと考えているところである。

併せて、道路・水路等の整備については、本年度から一気にはできないので、順次整備することで湯田地区コミュニティ協議会といま話を進めさせていただいているところである。

今後もこのような取り組みを行いながら、皆様方の目標である薩摩高城駅ポケットパークが農産物直売所として活用することで、地域活性化・活気あるまちづくりを実現するための支援は今後も行って参りたい。

3点目の旧高城西中学校の農産物加工センターへの改修について、市では、現在、公共施設再配置計画に基づき、それぞれの施設の利用状況や老朽化、配置バランス等を考慮しながら、施設との複合化や統廃合を進めているところであり、新たな施設の整備というのは考えていない状況である。

については、市が管理する農産物加工センターは市内に7箇所あるので、思ったように日程が確保できない等、ご不便をお掛けしていることもあろうかと思っているが、現有する7施設の保守点検等を行いながらそれぞれの施設の維持管理に努めているところであるので、これらの施設の活用をお願いしたいと考えている。御理解いただきたい。

要望

薩摩高城駅のポケットパークについて、一度、説明会があったときに、上・下水道の問題ですが、大した供給ができないと。下水を流す場合も簡易的な所にしか流すことができないと。いわゆる、鉄道ですとか国道3号の問題があつてということで、いろいろと地区としましてもアイデアを出しているが、要は水がある。その水の処分が必要だということを考えますと、なかなかソフト面で広がりが見えないなというところが地域としても考えているということであるので、上・下水道のきちっとしたものを何とか検討していただきたい。

【建設部長】

工事について、当初、今の鉄骨を再利用する方向で検討しておりましたが、不具合があるということで全体的に木造の建物であるということで説明会をしたところである。その中で炊事場を設置するというようなことも説明をさせていただいた。ただ、毎日使う住居と違うので、どこまで整備できるのか担当課とは話をする。まだ設計から施工に移るその辺りであるので、担当課に話をし、可能な限り調整させていた

だきたいと考えている。

提案

ポケットパークから見下ろす、塩浜地区の圃場整備ですが、先だっても現地調査をしていただいて、また、塩浜地区で玉ねぎを作っているということの大々的にPRしていただいて、これがテレビ放映もしていただきまして、生産者としましてもおかげさまでよく売れました。ただ、市でもよく取り組んでくださるほ場の貸農園方式がありますけれども、提案ですが、玉ねぎの栽培は興味があればできるが、玉ねぎの苗を作るといことが、問題というか、設備とか経験がないとできないというのがネックになっておりまして、米であれば育苗センターというものがある。塩浜の塩玉ねぎを大々的にやっていくことを地区としても願っているが、そのためには、いろいろな人がレンタル農園のような感じでやっていただくが、いかんせん、玉ねぎの苗が高い。玉ねぎの苗の育苗センターのような施設をぜひ考えていただいて、そこで苗と一緒に販売して、農機具についてはレンタルできるとか、あるいは、日頃の管理は地元の人が管理するということもできると思いますので、いの一番の苗について、一つ考えていただきたいということがまず一点です。

それともう一つ、貸農園をしますと人がいっぱい集まってくるのを予測しているのですが、駐輪場・駐車場の問題が出てきますし、それともう一つ、その隣に丘を越えたところに川口という浜がありまして、その浜は離岸流や潮の流れが少なく、いわゆるプライベートビーチ的な所がある。そこまでわずか2～300mの距離だと思うのですが、そこまでの整備やアクセスを市としても考えていただければ、ここは人工物は何も見えないと、見えるのは海と立花島と甌島しか見えないところなので、そこを観光のために取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

【農林水産部長】

現在、市が考えていることは、荒廃地になっているところに玉ねぎを植えられるようにしたいという御要望であったので、まずはそこからのお手伝いを始めていきたいと考えているところですので、また、いろいろ具体した、もっと広げた話であったので、その時その時に応じながら、また、地区コミュニティ協議会の方々と話をしながら、いろいろお互いに知恵を絞りながら取り組んでいきたいと考えている。育苗施設とかそういうところについても、本日初めて御要望があるとお伺いしたので、その辺についても今後、両方で協議をしながら具現化できたらいいのではないかと考えているところである。

要望

入り口があって物を作って、要はこれをどこに消費を求めるかということになりま

すと、鹿児島から全国各地に送るといふ物を運ぶ時のコストがネックになっております。聞くところによりますと、グループでサイトに登録したりすると、一般で送るよりも半分のコストで物を送ることができるようである。薩摩川内市内にもキンカンやブドウ等いろいろな物がある。生産者が頑張ったとしても、送るための金額が高くなつては意味がないと思ひますので、集配センターも含めた、格安で消費者に届けるというものも勉強していただきたいなというふうに要望します。

意見

ポケットパーク農産物直売所の件について、指導をいただきながらやつてるところであるが、基本的にポケットパークというものは、地区の高齢者のための地域活性化を重点目標として、最初はボランティアでやらなきゃいけないかもしれないという覚悟で取り組んで、徐々に拡大していく方向を考へるということで、将来は先ほどの話のようなことになろうかと思ひますけど、まずは、高齢者の方たちとのつながりを密接にしながらかやつていきたい。地区コミュニティ会長の方針でございます。また、市からの方針でもそうだと聞いております。

それから、加工工場についても、いまポケットパークでの作業室、料理室とは言えない状態の排水関係とか雑排水処理とか衛生面の関係で、一応、作業室という名称で担当課より指導を受けている。ここで作つたものを売るといふことは、まず、保健所のハードルを越えるのには問題があろうかと思ひまして、それで、高城西中の調理室があるところを、高齢者の伝承する食品等を、味噌づくりや漬物づくりです。しかもこれを販売するとしたら、衛生上しっかりしたものを作らなきゃいけないということで、陽成の施設を見させていただいたけれども、あのような施設で、高城西中の一角をちょっと改装していただければ、私たちのコミセンの目の届く所で高齢者と一緒を楽しみながらか作つていきたいと、そういうつもりで加工センターをとつていただくようお願いをした訳です。市内に7つの加工センターがあるということですけど、私たちがやろうとしている主旨が目の届かないようなところでやるとなると、ちょっと大変だなと思ひまして、将来でいいですけど、検討していただければと思ひます。

議題3 西方地区

井高踏切の拡幅工事について

井高踏切を拡幅して大型車が通行できるようにしてほしい。

踏切より東側については、地区内災害時の唯一の避難場所及び集合場所の旧西方小学校があります。この小学校は災害時の集合場所となつてはいますが、送迎などの大型バスが侵入することができません。そこでぜひ、踏切の拡幅を行い大型車の通行を可能にさせていただくことを要望します。

また今後、南九州西回り自動車道の工事が進んできますと、資材を運ぶためには井

高踏切を通らなければならない。さらに、さつま風力発電事業も計画に挙がっていますが、西方地区を通らなければどうにもできないわけです。本格的な工事は踏切東側がほとんどであり、大型車両の進入が必要となってきます。そういったことも含めて、西方地区の安心安全のために、ぜひ拡幅をお願いしたいものです。

【建設部長】

国道3号から井高踏切までは、平成30年度までで拡幅して、市は拡幅したいんだという意気込みを県や鉄道事業者には見せている。

そのような中で、県のいろいろなところでこういう拡幅要望があり、採択枠が非常に少ないというようなことで現在に至っている。

ただ、県の窓口あるいは肥薩おれんじ鉄道とは常に協議をしながら進めているところである。

網津踏切は、単線で約1億円程度。井高踏切については、構内にある複線ですので2億円以上は掛かるだろうということになる。現在が、国の補助を50%もらおうというようなやり方で協議を進めている。県の方で無理やり採択した場合でも、年間に1~2千万円程度ぐらいしか予算が付きにくいということである。工事費が年間4千万円としたときに5年程度掛かるということになる。そういう話を肥薩おれんじ鉄道に持っていくと時間をかけてやりませんよと、2年ぐらいでやりたいといわれる。そうすると国の補助が少ないところで残りの分に市費を当てないといけないということで、言われるように積み立てをしておけばいいが、非常に難しい。ただ、こういう補助事業の中でまれに県内で休息をしないといけない現場なんかがあると、本市に打診があるといったタイミングがあるので、県にそのような情報があったら頂けないかということで取り組んでいる。ここではいつからできるというようなことは申し上げられないが、とにかく地元の事情は分かっていますし、南九州西回り自動車道の工事が始まると、間違いなく通らなければならないのでその必要性を県・国に訴えていきたいと考えている。

その他意見・要望

要望

旧西方小学校(教室棟)の今後の取り扱いについてどのような工程で進んでいくのか教えていただきたい。

現在校舎を活用したサロンが毎週行われ、高齢者の憩いの場所となっている。年間には700名弱の参加がある。

このように、薩摩川内市からの指導の下始めた「サロン」が精力的に行われているが、今後この校舎がどのような取り扱いになるのかぜひ教えていただきたい。代替えの

建物等の考えがあればそちらについても教えてほしい。

【市民福祉部長】

支え合い事業、サロン事業における場所の確保に対する考え方をまず答弁する。

いずれの事業についても、地域主体の介護予防ということで、参加の人数等により既存の地区コミュニティセンターや自治会館を利用する等、地域の実情で設定いただいているところである。西方地区においては、旧西方小学校の教育棟となっているようである。

事業を推進します担当部署といたしましては、地域主体の介護予防等を促進する立場ではございますが、市において利用する個の施設を確保することは申し上げられないということである。

いずれにしても参加の規模等を考慮いただいて継続して実施できるように場所等を設定し取り組んでいただくことが、市としてのスタンスであるので、今後、施設の確保が必要であるということであれば、本日の機会を皮切りに必要な取り組みの支援といった形では関わっていかせていただきたいと考えているところである。

【総務部長】

閉校跡地は、地元で全体的な利用をされない場合に企業向けの希望を募っていくことになる。西方小学校跡地については、現在、まるごとささえ愛事業等で校舎の一部を地域で利用されているので、並行して企業向けの利活用を募っているというような現状になっているところである

西方小学校については、平成25年4月に閉校しており、期間的には6年経っているところであるが、現在の閉校跡地の利活用の制度に条例を改正したのが平成29年であるので、当面はこの方法で利活用をされていくことになるので、それまでの期間については、グラウンド、体育館も含めて地域で御利用いただくような流れになってまいろうかと考えている。

閉校跡地の企業等の利活用については、財産活用推進課が窓口となっておりますので、いろいろお話の方がきているところである。そういった中で、先行して利活用している閉校跡地もございますが、地域と共存・共栄できるような利用の仕方をしていただくところというのを、できれば持ってきてご紹介できるようになればというふうで頑張っているところである。

要望

耐用年数が、鉄筋の場合はおおむね60年ということである。そうすると、あと4年ぐらいだと思っているが、もし、解体ということになった場合等については、避難場所として講堂は残さなくてはならない。そしてまた、地域の皆さん方が集まる場所

の提供ということは、地区コミュニティ協議会としては、

重点課目として取り組んでいかななくてはならない。そうした場合に、代替の建物とかそういったもの等々を含めて御検討していただければありがたいと思っている。

【総務部長】

お話のあったように、校舎は55年経過している。それで耐震工事を実施していないので現行で使用する分には構わないが、これを引き続き使っていくこととなると、耐震補強工事を入れないといけないということで、それには相当な金額が掛かるところである。

閉校跡地の中には、このような耐震を行っていない状態のところもあるが、事例として出てきそうな分では、耐震も含めた工事を施した上で、民間が利用するというようなお話の方も出てきていたりするので、理想ですが、できればそういった企業の方に入っていただく中で、地元のこういうような利用の仕方をしたいとか、年に1度はこういうようなお祭りとかこういうのがあるよとか、日頃の活動の中では、施設の空きがあればこういった所も使わせていただければというような話も入れ込みながら、建物を温存できるような使い方というのをしてもらうのが一番の理想である。ただ、それには相手があることであるので、まずはそういった企業等のいろいろな引き合いがある分について、いろいろお話をしながら今の施設をできるだけ利活用した中で民間移行するというのを考えていければというふうに考えているところである。

【市民福祉部長】

現施設の残りの対応の5年間、その利用の状況を見て、また新たに企業等が入ってきたときに共存・共栄できる形で見い出せないかという回答もあったが、仮に、私共の方でサロン事業等をお願いし、地域で取り組んでいただいているが、そういったものがなくなるということについては地区の活性化、まちづくり等に困る状況であるので、施設の状況等を見ながらどのような形で支援できるのかは回答を出せませんが、相談を受けながら確保に向けてといった形を精査して参りたい。

要望

自治会内に市営住宅が2戸あって1戸は空いている。子どものいる方でないと入れない住宅とお聞きしている。しかし、空いて2年以上になるのではないかと見てもったいないと思うので、一般の方でも入れるような方法がないのか、あるいはどうすればできるのかお聞きしたい。

【建設部長】

地域振興住宅ということで、湯田小学校等の複式学級がある校区を優先に、児童を呼び込もうという、民間型の市営住宅である。一般の事業者に造っていただいて、市

が25年程度借り受けて貸し出している。造るに当たって、県からの補助金もいただいているためという理由もあると考えている。持ち帰って担当課と協議し回答したい。

要望

小・中学校も閉校になった今では、当時の入居の方法では難しいと考える。何とか入れるようにお願いしたい。

要望

人口減少と高齢化がどうしても止まらないような状況になっているが、今後ますます高齢化のために運転免許証の返納をされる方も出てくる。そうになると、生活のための足というか、買い物に行くための手段がないということで、ますます家に引きこもりがちになる、人と話をしなくなれば外に出なくなってくる。こういったことを何とか解決するため、コミュニティバスやタクシーのようなものを走らせていただいて、決まった曜日に来るよということが分かれば、街まで買い物に行ってみようかという形になって、皆さんが活動できるようになるのではないか。そのような計画はしていただけないか。

【商工観光部長】

地域の足の問題は市としても悩んでいる状況である。地域公共交通として市全体で、いま民間のバスが18路線、市が委託するコミュニティ交通が13路線で、合わせて31路線であるが、民間のバスもだんだんと便数が減ったりしているところである。ニーズは増えているといわれているが、利用者が減っているので経営が厳しいところである。

市内のコミュニティ交通の13路線は、年間27～28万人が利用しているが、収入が3,700万円、支出はというと2億3,000万円という赤字となっている中で、もう少し便数を増やしてほしいとか、いろいろなニーズがあって全部拾えていない現状があり、非常に悩ましいところである。

水引地区には、1日50便のバスが走っている。民間が37便、市で13便という内訳である。

今言われたように、民間のバスが走っておりこれが減っても困るので、我々はこの地域内で何とかする方法はないかということで、実はデマンド交通を地区コミュニティ協議会がしていただく制度を持っている。ただ、例えば御意見の中に、あの店まで行ってほしい等の要望があり、実際に行けるかということ、民間の競合にならないように、最寄りのバス停までとかなってしまうが。今後、担当課と地区コミュニティ協議会といろいろな意見交換をさせていただきたいと思っている。当然地区コミュニティ協議会の御負担も出てくるが、料金等を地域で取りながらより利便性の高いお出掛けができるような形を模索していきたいと持っているのでもよろしくお願ひしたい。

意見

民間バス路線を侵害したらいけないということは、なかなか難しいことですね。

要望

バスに乗る人たちもいない。バスで川内まで行ったりということではなくて、例えば病院等へ行くのに路線バスで行くと、そこからまた歩かなくてはいけないので困るということである。デマンド交通の活用も考えてはいたがなかなか進まなかった。

【商工観光部長】

現状は1便当たり、23人程度乗らないと採算が取れないところに利用者が2、3人という状況であり、なかなか厳しいところだが、コミュニティの力をなんとか生かしながらできる方法はないか模索したいと思っているので、その辺りの方針が出ると事業所へも語れるところがある。なかなか大変であるが、一緒に考えさせていただきたい。

要望

市長から少子化問題の話もあり、市とされても一生懸命取り組んでいるとは感じている。せんだって、地域おこし・地域づくりという講座があり、参加してきた。その中で、地域が活性化しないところにカンフル剤的な、投資もしているが、地域おこし協力隊という人材を呼んで、地元の方が全く思いもしないような発想で地域おこしをやってらっしゃるといような成功体験も聞かせていただいた。

第一の課題として挙げてある子どもが生まれにくいということであるが、少子化対策というものがひょっとして口先だけではないのかと感じている。全国では人口が増えているところもあるとお聞きしている。そのような成功体験のある、多くのアイデアを持つ方が全国にはたくさんいると思うが、そのような地域おこし協力隊のようなあるいはそれ以上に何か少子化対策の課とか部署とかあるいは全く違うところからの人を3年とか呼ばれて来ると、場合によっては、専門的な人がいないと遅いので、地域外から募集すれば来てくれるのではないかと思うので、協力隊的な子育て支援というものをやっていただきたい。

次に観光に力を入れると話があったが、その通りだと思っている。電気のまちとして現在建設中のコンベンションセンターに通年でイルミネーションを設置したら、大観光地にならないだろうか。資源としてある、電気の有効活用をされたらどうか。鹿児島中央駅までは人が来ているのに、そこから先に来ない。人を引き付けるものがないからではないかと考える。

【企画政策部長】

お伺いすると、地域づくり・地域活性化のための人材育成を、外から来ていただいて活性化できないかという視点ではないかと考える。地域おこし協力隊については、平成22年度からスタートしており、長い期間、取り組んでいる。平成25年度からは国が推進する地域おこし協力隊制度を活用しており、本年度で2期目が終わろうとしている。来年度以降の次期計画を作成しているが、市内のコミュニティ協議会にアンケートを取って全体で17名の地域おこし協力隊員を1月から募集する予定である。地域おこし協力隊員は地域の課題を解決するために、地区コミュニティ協議会の方々と一緒になって地域の活性化に取り組んでいる。隊員は3年したら卒業して、地域にとどまったりあるいは市内に就職したり、あるいは結婚し子どもが生まれている隊員もいるので、地域活性化にも大きく貢献していると考えている。

さらに、いままでは交流人口・定住人口と言っていたが、最近では国の地方創生の事業の中で関係人口という言葉が出てきており、そこには住んでいないが外から定期的に来て、その地域を応援する方、そういった人材を派遣する制度も出てきている。

また、集落支援員という制度がある。この制度は本市では活用していないが、地域に入って行って集落を支援する制度があり、それを活用したら地域活性化のための人材活用策になると考えるので、こういった面についても研究はしてみたいと考えているところである。

【市民福祉部長】

子育て支援的な地域おこし協力隊といった話があった。市としても子育て支援策については全体的に、出会いから、生まれて、保育園、学校に至るまでの全過程について、いろいろな知恵を出ささせていただいている。先ほどご紹介のあった長崎県や長野県の事例においては、人口が少ない中で子育て世代が転入して住んだら家がまるごと頂けるとか、出産については3桁くらいの出産祝い金を出すとかもろもろあるが、いま本市の子育て支援策の中で見えているものはそういったことも頭に入れながらであるが、働きながら地域で子育てをする、また、ふるさと教育のようなこともやっていくということであるので、ソフト的な部分の保育士を確保してきちっとした保育が行われる。そして、子育てに悩みがあったら相談員に会って専門的なアドバイスが受けられるというような、そういった部分をネットワークよく機能しているところである。一概に地域おこし協力隊、外部から入れたから支援策の方が格段に上がって、子育て世代が一気に流れ込むといった形については結構難しいところである。息の長い取り組みとして、他の先行事例、また違った形で地域おこし協力隊が入ってきた時に、ある地域の子育て支援策等も頭に入れながら施策の研究と実施の方に取り組むと考えているので、現状維持について御理解を賜りたい。

【商工観光部長】

川内駅前イルミネーションについては、現在、実行委員会あるいはスポンサーがい

らっしゃる。寒い時期を少しでも明るくということでやっていらっしゃる。川内港ターミナルも正月明けまで協賛していただく形で実施していただいている。それを1年中というアイデアは実行委員会とも話をしたいと考えている。

ただ、観光についてはおもてなしとプロモーションとよくいわれるが、今言われた地域という部分がある。アイデアだけではなくて、それをおもてなしされる地域の人材の方々と一緒になってお客様に何を伝えるかというような話もしていかなければならないし、一番大切なものはその資金である。行政の資金も限りがあるので、共感して盛り上がっていく様相を観光客は見に行きたいと思っているはずであるので、行政だけ頑張ってもなかなかお客様には魅力が伝わらないので、そこをまた一緒にやっていきたいと思っている。

観光に関しては、月屋山やターミナルの活性化の話等いろいろなネタがある。高城のポケットパークや川内高城温泉等いろいろなスポットがあるので、いろいろな場面でお呼び寄せいただきたいと思えますし、市からも御相談することもあるかもしれないのでよろしくお願ひしたいと考えている。

意見

何をするにしても受け皿が一番大事だと思う。子育てをするにしても観光にしても。例えば、少子高齢化が進んでいるというものの、高齢化についての手当、少子化に対する手当を市でどんな風な醸成というか土壌づくりをしておかないといけないと思う。いま若い方が来るといったところは、多分来て安心して子どもが産めて環境が良くて学校環境もいいといった整ったものがあると思う。だけど、土壌をどうやって作るかということが問題だと思う。

観光もそうだと思います。川内に来てどこに行こうかと案内をお願いしたら、どこに行ったらいいでしょうねといわれたということや、おいしいものを食べたいと尋ねたら、どこに連れて行こうかと迷われたといった話も聞いたことがある。ですから、その土壌を作るためには先ほど言われたように、行政と地域が擦り寄った話し合いをしながら持っていかないと、行政で、ただここでこうですネと言うだけでは解決できないと思う。やはり地域がついてこない事には。地域の方から送っていくことも大事だと思います。そこを観光・建設・農林全てにおいて大事な部分ですからやっぱり土壌づくりとしてどう努力したらいいのかということや地域ともうちょっと語り合ってやってもらいたい。こういう場は大事だが、この場は一つの問題提起をして解決することですから、やっぱり、行政と地域の語り合いは大事だと思います。

思っていたのですが、問題点があるわけですね。その問題を解決するにはどうすればいいのかということやまずは考えなければいけないと思っている。そこまではいかもしれませんが、じゃあどういふ人たちが集まってその問題解決するんだということまでいっていないと思う。そこまで深く詰めていかないと解決できないんじや

ないかと思っています。例えば人口が少ないからどうしようというだけではだめだと思います。じゃあそのために地域のどういう人たちと話をしてどういう施設を造ってどういうことをしたら他所から来るのかということを決めていく必要があるかと思っています。ぜひ、行政には一歩前に進んで来ていただきたい。一歩前に踏み出す勇気を持っていただきたい。地域は待っています。

総括

【岩切市長】

議題として各地区から出された御要望については、財政が伴うことになると、すぐにやりますとは言えないが検討して参りたい。

ただし、地域おこしというのは地元の方々がどのように考えどのようにするのかという自助とこれはどうしても行政とタイアップしなければならないという共助、市がやらなければならない公助といったものにすみ分けしていかなければならない。

合併して市域も県内で一番大きな市になった。ずっと回っているが、だいたい同じような御意見が出てきている。やはり何といても道路や河川の整備といった金額が掛かるものが大半である。

市では子育てについては環境づくりが大事ということで、市内の事業所に結婚しやすい職場、子どもが生まれやすい職場といったような環境づくりをしましょうということでイクボス宣言をしてもらっている。共稼ぎが多いことから、休みが取れないといった子育てのための条件が整っていないということで、なかなか結婚もできない等の問題もいろいろあるが、こういったことを企業が優先してほしいということで、市として環境づくりに精一杯取り組んでいる。また、子どもが大きくなっていくと費用が掛かることから医療費や保育料等々、いろいろなことで子育てについては、県内一であるかと思っているが、今すぐ結果が出るということではなくて、5年後、10年後に結果が出てくるのではないかと思っている。

水引地区では、港まつりの開催や月屋山、川内川あらし等があり、地元がまとまってきたということは大変素晴らしいことであるかと思っている。したがって、港の活性化がなければ港の周辺は活性化しない訳で、その分、貿易港として生かしていこうということであるが、今の埠頭では大型コンテナ船等が着けないため、これを30年ぶりに大きな港にしてほしいということでずっときたが、すでに計画が国の審議会でも通過したので、ようやく唐浜埠頭にコンテナ船の1万トクラスを着けるようになった。こうなると、まだまだ活性化が図られるかと思っている。それは、地域の皆様方の地域おこしが、市が陳情するときの一番の大きな目玉として、こんな地域活動があるということが説得材料としている。ようやく川内の港が、先が見えてきたという状況である。

湯田地区はポケットパークを発案されて、これを活性化しようとされている。そのためには産物を作ろうと自助努力でされている。先ほどの質問では、加工するものであるとか生産するところの整備であるとか話があったので、これも市と共助しながら活性化を図っていただければありがたい。

西方地区は、まるごと支え合い事業やてげてげサロンといった魅力のある名前で事業を展開されている。こういうことを含めて、年をとっても元気で楽しくそして、家に閉じこもらないような事業を展開されていることに感謝を申し上げたい。高齢化が進んでいくので、地域は地域で守るというみんなで助け合っていくこういう活動がどんどん実ってきているのではないかと思っている。阪神淡路大震災の時はコミュニティという言葉が使われた。かねてから隣近所の情報が共有されていなければ何も分からないということで、コミュニティの必要性をいわれた。東日本大震災では絆といわれた。みんなで助け合っていくということがああいう大きな事故が起きても、隣近所や地域が一本化していくところは本当に大事であると感じている。

合併のときに地区コミュニティ協議会を作って地域が寂れないような制度を作ってきている。皆様方の地域が特色のある地域づくりをまずは自助努力でやってみられて、それを土台にして、共助、公助と捉えられていくことで地域が活性化していくと考えている。